



町の産業と観光振興

町史編さん協力員 安保 明彦(現代担当)

私は、町史の農林水産業の振興及び商業と工業の状況、そして観光事業の振興について担当しています。今回は、そのことについて私見も含めて一部紹介させていただきます。

皆さんご承知のとおり、戦後の農業は急速な経済成長と国際化の著しい進展により農政をめぐる状況が大きく変化する中、生産量の拡大から効率的な農業経営へと転換してきました。

秋田県の主となる産業は農業、それも食用米中心の農業でしたので、国の食用米の減反政策に反対した歴史を、学生時代にニュースで見た記憶とともに改めて思い出しました。人口減少と食の多様化により食用米の需要が年々減少してきた社会情勢を受けて、米中心の農業からの脱却、複合経営への転換を求められ、中小の農家の経営は、大規模化、複合化そして法人化へと大きく変わってきました。

秋田県内でも、法人化による複合経営にいち早く転換してきた地域もありますが、小坂町においては、その流れに時間がかかりました。これは、小坂町の基幹産業が鉱山・非鉄金属製鍊業であり、もともと中小の農業経営者はこの関連の事業所に働きながら農業を営むといった兼業農家が多く、複合経営を求められた大規模な専業農家が少なかったという状況も影響していたのではないかと感じています。

現在では、農業の複合経営化に向かって様々な動きが出てきていますが、少子高齢化の影響もあって、後継者の育成という新たな課題を抱えています。

このような中、特定の病原菌を持たないSPF豚の大規模生産販売を手がける養豚事業が展開され、地域農業との連携が始まったこと、小坂七滝ワイナ

リーが開業して地場産品を活用した農業の6次産業化を推進する動きが出てきたこと、そして新たな滞留型観光を目指し、グリーンツーリズム構想が展開されていることなど、農業と観光分野が連携して小坂町に新しい産業が生まれ、育っていくことが期待されています。

漁業の分野でも新しい動きが出てきました。それは、「十和田湖ひめます」が平成26年(2014)12月に地域団体商標に登録されたことです。これによって、「十和田湖ひめます」のブランドイメージを保全強化して、その魅力を最大限引き出し、販路拡大が図られる期待されています。秋田県及び青森県にまたがる漁業者、飲食店等は、連携して「十和田湖ひめます」のブランディングアップに取り組んでいます。

工業分野においては、長い歴史の下に培われてきた非鉄金属製鍊業の技術を活用した環境リサイクル産業が、現在の町の雇用や経済の発展を牽引していることは皆さんご承知のとおりです。今後多くの関連企業が小坂町に集約され、環境リサイクル産業の町としてさらなる発展が期待されています。

観光面では、東日本大震災のあった年、平成23年(2011)に大きく観光客数を減らしました。しかし、明治百年通りの近代化産業遺産と四季折々の自然豊かな十和田湖、そして、それぞれの地域資源を活かした観光エリアを連携する新たな広域観光が推進され、特に外国人を中心に観光客が増加してきています。今後は、体験型観光など観光客のニーズに対応したプログラムの開発により交流人口がさらに伸び、地方の新たな活性化が図られる期待しているところです。

令和元年度 第2回公共工事発注見通し(予定価格250万円以上)

番号	工事名 場所	期間	種別	概要	入札及び 契約の方法	入札予定期間
1	下水道管渠工事(万谷第三工区) 荒谷字万谷地内	約4か月	土木	下水道管渠φ150 L=326m	指名競争	第3四半期
2	大稻坪マンホールポンプ改修工事 小坂字岩沢平地内	約3か月	機械	ポンプ2基更新	指名競争	第3四半期
3	十和田出張所解体撤去工事 十和田湖字生出無番地	約2か月	解体	RC造 1階建解体 A=99.6m ²	指名競争	第3四半期
4	レールパーク構内用枕木購入及び交換工事 小坂鉱山字古川地内	約2か月	土木	旧小坂駅構内の枕木交換 200本	指名競争	第3四半期
5	大上橋橋梁塗装工事 小坂字金畠地内	約3か月	塗装	橋梁塗装 A=110m ²	指名競争	第3四半期
6	交流センターアリーナ防災機能強化工事 小坂字砂森7-1	約3か月	建築	システム天井864m ² 撤去、バスケットリング装置更新、照明器具等落下防止、照明器具一部更新	指名競争	第3四半期
7	チャイムクリーン公衆トイレ改修工事 小坂字砂森1-1	約3か月	給排水 冷暖房	便器、トイレベース更新	指名競争	第3四半期
8	松木沢川護岸工事(上谷地地区) 小坂字上谷地地内	約3か月	土木	護岸工事 L=13m	指名競争	第3四半期

●お問い合わせ先 建設課建設班(TEL29-3910)